元気のヒ・ケ・ツ　2019年6月発行

足立の商人・創人

【編集・発行・問先】
足立区産業経済部産業振興課
「元気のヒ・ケ・ツ」製作チーム
3880－5865（直通）

元農業委員会会長

足立区舎人
大熊　久三郎さん（72歳）

「求められるからこそ、
頑張れる！」

農業のみならず、地域の世話人として活躍されている大熊さんの「元気のヒ・ケ・ツ」をお伺いしました。

大熊さんの「元気のヒ・ケ・ツ」は・・・
- たくさんの人に求められること！
- 大胆に挑戦する勇気！
- アイデアを何でも実現する実行力！

笑いの絶えない大熊さんのインタビュー、どうぞご覧ください！

このお仕事を始められたきっかけを教えてください。

高校卒業と同時に、親の後を継いで農業を始めました。私が結婚したすぐ後には、父が倒れてしまって。畑を守るため、家族総出で大変だったけど、そういう経験があったから、今まで頑張ってこられたんだと思います。

農業をするにしても、知識をつけないといけないと思って、通信制の大学に入学したけど、忙しくて思うように勉強できなかった。ただ、農業を語れる友人が日本中にできたから、今ではよかったと思っています。

主な農作物について教えてください。

昔は「浅葱(あさつき)」を栽培していました。種類を色々作るより、一種類に絞ったほうがいいと思って。

浅葱（あさつき）：江戸東京野菜「足立のツマモノ」のひとつで、刺身のツマなどにつかわれる。ネギよりも緑が薄く、細いのが特徴。（写真右）

結果的に品評会で一等を取るような、いいものを作ることができて、有名な高級料亭や大手の販売店にも「大熊の浅葱」を認めてもらえた。本当にいいお客さんに恵まれたと思います。

息子が農業を手伝うようになってからは、息子の意見も取り入れて、色々な種類を栽培するようになった。トマト、コマツナ、ホウレンソウ、インゲン、ダイコン、エダマメ、サニーレタス…40種類くらいになるかな。今の時期はトマトやエダマメが好評で、特にエダマメはほとんど予約でいっぱい。販売先は、直売をメインにして、近隣の小学校の給食や介護施設、JAの直売所にも出荷しています。

経営の大半は息子に任せていますが、私も毎日畑に出ています。畑での作業なら、今でも私が一番働いている自信があるよ（笑）。

人気の大玉トマト。ハウスの中で鈴なりに実っていました！（写真左）

農業を営んでいて、よかったと思った体験は？

農業委員会会長の時に携わった、豊穣野菜の宝船制作は印象深いですね。使った野菜は、この時のために作ったけど、赤カブとかは大きさと色を揃えるのが大変だった。

使った野菜を来場者に配る「宝わけ」でも、たくさんの人に喜んでもらえて。あの場に立ち会うことができたのは、何よりの光栄でしたね。

区制80周年記念の豊穣野菜の宝船。勇壮な佇まいです！

忙しい毎日ですが、元気のヒケツは何ですか？

元気のヒケツは、毎日忙しいから！（笑）長年、小学校で子どもたちに米や花の栽培方法を指導してきたし、役所に掛け合っていい楽器を買ってもらって、保護者のブラスバンドを結成したりもした。日暮里・舎人ライナーの開通にも地域住民として協力した。保護司の活動は、もう30年近く（！）になるかな。

必要としてくれる人がたくさんいることが、頑張れる元気の源ですね。あとは、地元の農家仲間との会合は欠かさず行くようにしている。楽しい時も悲しい時も、飲み会は欠かせないね（笑）。コミュニケーションをたくさん取れるし、色々なアイデアも、そういう場でこそ生まれると思うんだよね。

（写真上）青々としたフリルレタスが植えられたハウス。

（写真右）ブラスバンドのメンバーだった時に演奏していたユーフォニアム。「音はもう出せないよ（笑）」と恥ずかしそうにされながらも、素敵な音色を奏でてくださいました！

午後3時半の開店と同時に、お客さんが続々と直売所へ！採れたての新鮮野菜が手に取られ、飛ぶように売れていきます！

お仕事以外の楽しみについて聞かせてください。

歴史が好きですね。地域学習センターの会報で、足立区の歴史についてのコラムを書く機会があって、各地域の人へ取材して、毎月書いていました。郷土博物館にある資料の原稿には、私が書いたものもあるんです。

学校関連の仕事をしているなかで、子どもたちの笑顔に触れることができるのも励みになるね。でも、気心知れた農家仲間と一緒に何かするのが、やっぱり一番かな。

足立区の農業の今後について、思いを聞かせてください。

これから農業で生き残っていくためには、販路を自分で開拓していくのが重要だと思います。安く売るのは誰にだってできる。いいものを作って、安定的に供給できるようにならなければ、モノの価値に見合った値段で売るのは難しい。

生産する私たちも、常に「いいものをつくる」という気持ちを持ち続けることが大切だと思う。野菜を品評会に出すときには、何でもいいから賞を取ろう、という気持ちでやっています。そんな中で、「おいしかったから買いに来たよ！」という声を聞くと、うれしい気持ちになるし、頑張れる元気の源になりますね。

次から次へと新しいアイデアが浮かぶこともさることながら、それを実現してしまう素晴らしい実行力。その原動力は、好奇心旺盛で大胆に挑戦する勇気と、人一倍農業と地域を愛する、熱い思いだと感じました。

誰にも負けない情熱が、大熊さんの元気のヒ・ケ・ツ！

【大熊農園直売所】
所在地：舎人5－17
（コモディイイダ舎人店駐車場隣）
営業日時：月曜から土曜、午後3時30分～午後6時（土・祝休み）